


I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立八戸第一養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input checked="" type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習(探究)の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他()		
	単元(題材)名	球技「ソフトボール」		
	単元(題材)の目標	身体の軸を安定させてバットを振りぬき、タイミングを合わせてボールを捉える。 (知識・技能)		
学習集団と実態	学部・学年・人数	中学	部	1・3 年 3 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	<p>準ずる教育課程で学習する男子3名である。スポーツに関する情報は、テレビやSNS等で仕入れており、特にプロ野球や高校野球には豊富な知識がある。授業では、作戦等について積極的に話し合いをする場面が見られ、授業に対する興味関心もおおむね高い。運動に関する観察や考察は得意であるが、自分の運動について、他者からのアドバイスを受け入れ、それを生かして動きを修正することは得意ではない。</p>		
I C T 活用について	使用した支援機器・教材の名称	iPad、インタラクティブボード、パソコン		
	使用したアプリケーションの名称	タイムシフトカメラ、遅カメ、カメラ		
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (<input type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援) <input checked="" type="checkbox"/> 実態把握支援		
	I C T 活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚的情報により、自分自身や友達の良い所や修正部分を理解するため。 ・ 自己評価と友達同士の評価を活発化にし、動作イメージを共有するため。 ・ 生徒のバットスイング動画を記録するため。 		
活用の状況と支援	<p>【自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒はテーパーバッティング、トスバッティング後に、自立式タブレットで撮影された自身のスイングの様子を見て、頭の位置や腕の振り方など、修正点を分析して自己評価する。 <p>【友達同士の評価+自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保存した動画を元に、友達の運動の様子と自分の動画の様子を見比べて、友達と教師と一緒に良い所や改善点について意見を交わす。野球選手との違いや真似したい部分を友達や教師と共有する。最後は、話し合いの意見を参考にバッティングを行う。 <p>【生徒への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ①自己評価→②友達同士の評価+自己評価→③自己評価の順で振り返った。動画を活用することで、他者とのイメージの共有や自己の運動の分析を指導することができた。 ・ 言葉だけでは、断片的になりやすい場面でも、映像を活用することで、修正箇所が明確になり、探究心をもってバットスイングの改善に取り組む様子が見られた。 ・ 記録(動画)を積み重ねることで、上達過程を段階的に記録できた。 ・ 今後は、動作の模倣や打球動作でも活用していきたい。 			

